

No.732 November 2017

ASAHIMACHI

Public Relations

の 広報 あさひまち

2017

11

No. 732

真っ赤に実る

りんごのアーチ



最高賞に輝いた絵画「覗いた先には」と作者の鈴木さん。作品は11月3日～12日まで創遊館廊下に展示されました

10月13日から15日にかけて鶴岡市で行われた第65回山形県高等学校美術展および第41回山形県高等学校総合文化祭において、鈴木英里奈さん（寒河江高校／雪谷）の作品が見事最高賞（県高等学校美術展賞・総合文化祭賞）に選ばれました。

作品名は「覗いた先には」。油彩・F130サイズ（1940×1620）の大作で、マンホールの中を覗き込む女の子の視界の先に、赤い提灯や白銀の金魚、曼珠沙華の花やパイプ管など、幻想的な光景が広がっています。

テーマは「好奇心と驚き」と語る鈴木さん。「小さい頃、不思議だったマンホールの中。その先にもう一つの世界があったら面白いと考えました」

マンホールの先に不思議な世界広がる

制作期間は構想を含めて約5カ月。夏季休暇中も毎日のように学校に通って描き続けたそうです。「驚きが伝わるように表情に気を付けたら、難しい構図なので、同じポーズで写真を撮って参考になりました」と、こだわりを語ります。好きなものや気になったものは普段から写真に残し、作品づくりに活かしているそうです。

近所に同年代の友達が少なく、絵を描いて遊んでいる内に自然と好きになったという鈴木さん。今後の抱負について、「まずは次の全国大会に向けての制作を頑張ります。将来は美術系の大学に進んで、自分の絵で食べていくのが目標。そのためにはたくさん作品をつくっていきたい」と意気込みを語っていました。

第65回県高等学校美術展および第41回県高等学校総合文化祭 鈴木英里奈さん（寒河江高校／雪谷）が最高賞を受賞

目次 ◎ CONTENTS

- P2 町長歳時記
- P3 Pick Up News
県高等学校美術展 鈴木英里奈さんが最高賞
- P4 特集
朝日町りんご物語
- P10 町政スポット
・平成29年度 自治功労者等表彰式
・10月22日執行 衆議院議員総選挙投票結果
・長岡輝美氏に法務大臣表彰 ほか
- P12 平成28年度 決算報告
- P14 まちレポ
・第53回 朝日町芸術文化祭
・八十八歳 二人展
・シャインマスカットのもぎ取り体験 ほか
- P18 RUN! RUN! RUN!
- P20 第20回ひめさゆり俳句大会
- P21 それいけ協力隊とウサビ、町立図書館コーナー
- P22 健康あさひるばんざい、アップル町民駅伝競走大会「第1区区間記録の修正」に関する経過の報告とお詫び
- P23 戸籍のまど、となりのりんごさん、町の主な行事・イベント
- P24 おいしいごはんポスターコンクール

表紙の写真



11月6日、和合平にある清野修二さん（四ノ沢）のりんご園地を撮影させていただきました。ゆるやかな傾斜に沿って、りんご（無袋ふじ）の樹がアーチのように枝を伸ばしている美しい景観。どこかで目にしたことはありませんか？

実はこのりんご園の写真、町の総合観光パンフレットやポスターなどにも使用されています。チェックしてみてください。

町長歳時記 (136)

若者が活躍できるまちづくり ～ふるさとを考え、友に寄りそう 真っ直ぐな若き想いに～

一目で朝日町と分かる赤白ボーダーの法被を着た朝日中1年生の堂々とした発表の様子が、私の目に飛び込んできました。これは11月4日、山形市の遊学館で開催された「郷土Yamagata ふるさと探究コンテスト」の一幕で、翌日の山形新聞に掲載された写真でありました。

朝日町産のリンゴや樺平の棚田などについて学びを深め「地域の良さを再発見した」との朝日中生の発表が、中学校部門で「ふるさと探究大賞」（最優秀賞）に選ばれたのです。

これは総合的な学習の時間で取り組み、学んできた成果をまとめ発表したものです。テーマが「地域を知る」で、めざす姿が「地域とつながり、地域のよさを再発見する中学1年生になること」。これは地域と自分たちの関係を見つめ、将来につなげていこうとする、大変感心させられる学習内容であります。

10月28日に開催された「朝日中文化祭」に私も出席し、前述の1年生の発表を含め、午前中に行われた各学習発表まで拝見させていただきました。いずれも地域のこと町のこと、さらには伝統文化の継承など、感慨深く感心させられた素晴らしい発表でありました。

また私は、生徒の皆さんの発表を聞く態度にも、さらに感動させられました。各学年の発表時はもちろんですが、少人数の発表である「こだま学級の音楽発表」時の真剣なまなざしと、「吹奏楽部発表」時のどこからともなく湧き上がった手拍子には、「みんな一緒だ。がんばろう」という、学校全体の強いメッセージが全身に響き渡り、熱い感動に包まれたところでありました。

この中学生たちの真っ直ぐな想いを大切に育て、将来彼らが活躍できる町を築いていくことが、私たちに課せられた使命なのだと実感したところです。

朝日町長 鈴木浩孝



(※)町に残る最古のりんごの樹(和合平／紅玉)。明治44年に植えられたもので、今も現役。
【写真は平成22年撮影】

ストーリー 物語①…和合のりんごや

和合のりんごや
甚内氏も20年あまり栽培に奮闘しましたが、りんごづくりは経費がかかる割に収益が上がらないと諦めかけていた大正14年、和合の菅井勝治郎氏が、そのりんご園を全て借り受けることになりました。

勝治郎氏は、病害虫に冒され、放任状態に近いりんご園をなんとかしようと、県の農事試験場に指導を仰ぎました。一から出直すつもりで樹の手入れに励む勝治郎氏。その努力と汗が実を結び、2年目にはかなりの収穫を得て、甚内氏を驚かせたそうです。その後も見事にりんご園を維持し、「和合のりんごや」と呼ばれるようになりました。

和合のりんごや
甚内氏も20年あまり栽培に奮闘しましたが、りんごづくりは経費がかかる割に収益が上がらないと諦めかけていた大正14年、和合の菅井勝治郎氏が、そのりんご園を全て借り受けることになりました。

Topics!

町で最初りんご栽培に成功した「梨屋さん」

新宿の梨屋 今井伊太郎氏



今井伊太郎氏

町で最初りんごが植栽されたのは釜山地区ですが、町で最初に栽培を成功させたのは「新宿の梨屋」と呼ばれた今井伊太郎氏という記録があります。

伊太郎氏は大正2年に新宿地区の桑畑と山林の一部を切り開き、和梨4反とりんご1反、桜桃も含めて5反3畝歩(約

1590坪)の楕山果樹園を造成。大正11年頃には梨・りんごともに収穫をみるようになったそうです。

好奇心が強く研究熱心で、妻の実家(山辺町面白)に植えられていた和梨の話を聞き果樹栽培を決意。りんごについては県の農事試験場はもちろん青森県の試験場にまで足繁く通い、先生から指導・助言を受けました。楕山の果樹園は当時珍しい観光果樹園の先駆けとして、収穫の時期には多くのお客さんと賑わったといします。

また、大正14年に釜山で菅井勝治郎氏がりんご園を借り受けた際、栽培方法について伊太郎氏に相談したという記録もあります。2人で2年間ほど共同で栽培した結果、釜山の果樹園でも見事着果がみられたそうです。

伊太郎氏はその後も地域の農家有志に果樹栽培を勧め自ら指導に当たり、昭和10年には新宿果樹研究会を組織。初代会長として生産者育成に尽力し、町の果樹栽培の第1人者として大きく貢献しました。

悪戦苦闘のりんご栽培

明治のはじめ頃、国では殖産振興政策を打ち出し、苗木の配布など、果樹栽培の推奨を行っていました。県内でも明治8年頃に苗木の交付を受け、試作が始まったとされています。町では明治20年、和合の菅井喜兵衛氏と鈴木庄太郎氏の2人が初めて釜山の開拓地にそれぞれ2〜3反歩

カゴいっぱいりんごを前に、誇らし気に立つ果樹園の人々。下の写真は昭和7年、和合釜山地区(現・和合平)で撮影された写真です。後列左から3番目の法被姿の男性が菅井勝治郎氏。釜山で最初りんご栽培を成功させ、「和合のりんごや」と呼ばれた人です。その名前は息子の一雄氏(写真前列の左から2番目、孫の敏一氏に引き継がれ、現在も町で最古のりんご園と紅玉の古木(※)とともに、親しみを込めて呼ばれています。

明治20年、和合釜山地区(現・和合平)に初めてりんごの樹が植栽されてから今年で130年目。今や自慢の特産品として県内外および海外からも高い評価を得ている「朝日町のりんご」ですが、一世紀以上におよぶ歴史の背景には、多くの先人たちの努力と汗の物語がありました。

▶特集：町りんご植栽130周年記念

朝日町りんご物語



昭和7年に釜山地区(和合平)のりんご園で撮影された写真。多くの収穫を得た喜びと誇りがうかがえる。

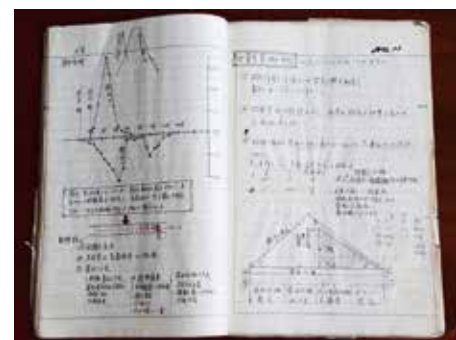
無袋ふじ研究会
ふじが普及し、町内生産量も伸びてきた昭和45年。従来の「品評会」を「ふじ品質検討会」として、有袋・無袋栽培それぞれの実の外観、食味、糖度と硬度について比較検討されることになった。着色重視の有袋栽培が主流だったが、資材や労力がかか

◆「無袋ふじ研究会」発足当時の取り組みについて、代表の菅井功さん（沼向）にうかがいました。

ふじへの品種更新
私が「東北7号」の苗木を植えたのが昭和34年、「ふじ」と命名されて苗木が売り出されたのが昭和37年。この頃りんご在来品種の価格が暴落したが、ふじは食味の良さから需要が高く、高値で取引された。自然とふじへの品種更新が進んでいったんだ。

りんごは接ぎ木で更新するが、実が成るまでには数年かかる。農協ではお金がない中でも「高接ぎ更新資金」を創設し、生産者の生活を支えてくれた。自分はなんとか1年で着果させられるように、技術の先進各地を駆け回って勉強した。恩返し的气持ちもあったし、何より色々研究するのが面白くて、好きなんだ。

仲間とともに努力と研究でつくりあげた全国に誇れる技術



▲功さんの当時の研究ノート。樹相の観察記録と問題点、その対策などが詳細にまとめられている

るし、何より無袋ふじの方がうまい。「見た目も食味も良い無袋ふじを作れば朝日町が有力産地となりうる」と確信し、研究開発に取り組みたい旨、町と農協理事会で賛同を得た。翌46年、無袋ふじ研究会が発足した。

研究会の活動
全会員63人が必ず1本のふじを無袋で栽培し、土壌や施肥の状況、生育状況を詳細に記録。県園芸試験場、寒河江農業改良普及所などの協力を得て、カラーチャートによる葉色比較や剪定の工夫、樹の成長を調整するために幹の皮をはぐ「環状はく皮」など、試行錯誤を繰り返した。

「袋をかけて着色を良くすれば高値で売れるのに」と多くの批判を受けながらも、会員1丸となって頑張っ

たな。おかげで昭和47年には「理想の樹相条件」が確立し、商品価値の高い無袋ふじを安定して生産できる技術をまとめることができた。この通りに作れば、最高の無袋ふじができる。と今も胸を張れる技術だ。袋かけ作業の中心だった女性たちも長時間労働から解放され、研究成果が広く地域に貢献したとして、地元新聞社などから複数の表彰も受けた。

無袋ふじ栽培の普及努力
市場の評価もすぐに逆転。有袋よりも高値で取引されるようになり、大きな自信になった。組合員みんなが栽培技術の平準化を目指して活動し、



「無袋ふじ研究会」代表を務め、栽培技術確立
菅井 功 さん（89歳 / 沼向）

その後は年々無袋栽培への転換が進んだ。先進地の青森、長野、福島からもたくさん視察が来たり、これは本当に全国に誇れることだと思うよ。

自分1人の人生でも、とても語りきれない。研究会の活動を含めて、これまでの町のりんごの歴史については、植栽100年を記念して刊行された「朝日町りんごの歴史」（9頁で書籍紹介）に詳しく書いてあるから、ぜひもう一度読んでいただければ私も嬉しい。

最後に、朝日町りんご植栽130周年記念事業に寄せて川柳を一句。
最上川 昔の流れ 知らぬ水
無袋ふじ 昔の味を 偲ぶ今



物語②…無袋ふじ栽培技術の確立

ストーリー

むたい

広がるりんご園造成

第2次世界大戦の終結（昭和20年8月15日）を境に、りんご園の造成が町内全域に広がっていきまし

た。農地改革により小作農から自作農への転換が進んだことに加え、りんごなどの果物は特に品不足で飛ぶように売れたからです。

東北七号（ふじ）の導入

昭和30年を過ぎると、スピードスプレーヤーの導入で防除作業の省力化が進み、これまで虫除けや着色のために行っていた有袋栽培から無袋栽培への移行が模索され始めました。そして昭和34年、東北七号（ふじ）の導入。その食味と貯蔵性の高さに生産者の注目が集まります。市場でも在来品種の数倍となる高価格で取引され、町ではりんご品種更新の大きな転換期に入りました。

無袋ふじ研究会の発足

ふじは優れた品種ですが、色が鮮明に出にくいのが難点でした。当時市場のりんごは「見た目」重視。生産者は数少ないふじを大事に育てるため、着色を良くする有袋栽培を行っていました。

しかし、食味においては無袋果と比べると淡泊で味が落ちる点。また、袋をかける費用と労力が今後栽培面積を拡大する上で問題になる点などから、無袋栽培研究が急務であるという気運が高まります。そこで町主催でふじの品質検討会が開かれ、昭和46年には、生産者（宮宿果樹生産対策協議会内）有志63名による「無袋ふじ研究会（菅井功代表）」が組織されました。

無袋ふじのトップ産地に

同会員は全員が必ず1本のふじを無袋栽培し、生育状況を詳細に記録。良質生産へつながる技術をまとめました。その成果が実り、昭和55年には町のりんご出荷量が3820トンを突破。量・単価ともに無袋ふじトップ産地としての地位を確立したのです。

◆りんご（シナノスイート）品評会

節目の年を記念して10月14日～15日、道の駅あさひまちでシナノスイートの品評会が行われました。出品数は38点、結果は以下のとおり。

最優秀賞	井澤 壽一	夏 草
優秀賞	菅井 恒好	沼 向
金 賞	海野 和博	送 橋
銀 賞	白田 憲彦	大谷三
銅 賞	菅井 克幸	小 原



努力賞 (3名)	志藤 一夫	川 通
	菅井 英幸	沼 向
	志藤 修治	栗木沢

朝日町りんご植栽
130周年記念事業

▲特製缶バッジとポスター（制作中）
でその歴史の深さをPR

物語③：町りんご産業のこれから

りんご植栽101年記念事業

昭和63年、町はりんご植栽101年の節目を迎えました。当時町のりんご園は540ヘクタールと全経営耕地面積の25%を占め、粗生産額もトップを誇るなど、基幹作物として定着。更なる振興発展と情報共有のため、7つある各生産組合員等から構成される町果樹組合連絡会議が設立されました。

翌平成元年に行われたりんご植栽101周年記念式典では、町をあげて「日本1りんごの町」を目指すことを宣言。「世界のりんご植栽」「記念誌の編さん」などの記念事業が発表されました。

これら事業の軌跡は現在も「町（世界）のりんご園」「記念誌 朝日町りんごの歴史」として、しっかりと残っています。

景気低迷による大打撃

平成7年、朝日選果場に光センサー選果機が導入。糖度や蜜入りを計測し、大きさや形を含め

て、より正確な選果が可能となりました。そんな中、全国的な景気低迷に伴い、りんご産業にも暗雲が立ちこめます。

平成9年、早生種から晩生種まで、りんごの価格が大暴落。平成14年には、ふじの平均価格が中央卸売市場で最安値をつけるなど、大打撃を受けました。

町ではこの危機を乗り越えるため、晩生種のふじに頼り切っていたりんごの品種構成の見直しを検討。シナノスイートなどの中生種導入をはじめ、生産者・農協・行政が一体となり、新品種の栽培技術の確立や消費宣伝に取り組みました。



計測トレーに乗せられたりんご。光センサーで瞬時に等級分けされていく

町のりんごが世界に

りんご産業に漂う沈滞ムードを払拭しようと、次に立ち上がったのが「輸出による農業所得向上」という挑戦でした。田舎の小さな町が単独で輸出を行うなど夢のような話でしたが、大使館への持ち込み交渉や、皆の足で得た情報を頼りに台湾市場へ初出荷（平成16年）します。町りんごの品質の高さや現地での販促活動などが功を奏し、現在は香港、タイ、フィリピン、マレーシア等へ販路を拡大。平成27年には71・8トンを出荷し、販売額ともに過去最高を記録しています。



海外でのトップセールスの様子。現地の高級スーパーに朝日町のりんごが並び

interview

～若手生産者の想い～

町りんご産業の今後を担う若手農業者の皆さん。今後の展望と普段の取り組みについて、「町若手農業者の会」の遠藤直裕代表にお話をうかがいました。

朝日町といえば「りんご」。この時期になると、道の駅や各販売所にお客さまが溢れ、町が活気に包まれます。これは間違いなくこれまでの生産者の皆さんが汗を流して築いてきたブランド力であり、私たち若手もその恩恵に大変感謝しています。

自分が就農した年はりんごの価格が低迷し、数年に渡り新規就農者もいない頃でした。ここ10年でようやく新規参入も増えましたが、それ以上の速さで耕作放棄地も増えています。りんご産業が縮小していく

中で、自分たちの次の世代も農業で食べていけるように、今の私たちが共通の意識を持って、農地や技術を守り伝えていかなければいけない。そう考えたのが「若手農業者の会」発足（平成25年）のきっかけです。現在会員は30人ほどで、お互いの園地を訪問しての情報交換や先進地への視察、イベント出展や懇親会などを行っています。自分は「〇〇について学びたい」「相談したい」という若手の自主的な声を拾って、パイプ役を務めている感じです。

次々変化していく時代の波に乗り遅れないよう、若手も経営者の危機感を持って考え、選択していくべき時です。そんな時、一緒に頑張る仲間がいれば心強いし、会がそういう場所になればいいと思います。



「朝日町若手農業者の会」代表 遠藤 直裕 さん（45歳 / 舟渡）

参考文献

本特集で参考に使用した書籍を紹介します。これらは全て、町立図書館で閲覧できます。ぜひご覧ください。



町りんご植栽101年記念誌。明治20年の植栽から平成元年までのりんごの歴史が網羅されています。



菅井功氏が自ら83歳までの人生を振り返って記した本。先人の努力と研究の足跡がうかがえます。



町のりんごをはじめ、町の宝物を写真やトピックスで紹介。平成22年に全戸配布されています。

朝日町におけるりんご栽培

および販売活動の主な歴史

年	主な出来事
明治20	和合釜山地区内に鈴木庄太郎氏、菅井喜兵衛氏により、りんごの植栽が行われるが、放任栽培のため一時消滅
昭和4	山形市中野の豪農、武田甚内氏により、同釜山地区内にりんごが75アールずつ植栽される。黒点病の発生が多く「和合の星りんご」と呼ばれる
大正14	菅井勝治郎氏が武田氏より園地を借り受け、本格的なりんごづくりに入る。県農事試験場より指導を受け、栽培に成功する
昭和21	町農会でりんご栽培を推奨。和合ほか粧坂、中沢、新宿、古楨の桑畑がりんご園へ転換進む
昭和24	終戦後の農地改革により、りんご園の造成が拡大。りんごの好景気は数年続き「りんごを500箱作れば蔵が建つ」とも言われた
昭和25	栽培技術が確立し、生産量増加。東京市場に初出荷
昭和29	宮宿果樹組合、㊸和合果樹組合が設立
昭和34	神田市場へ出荷し、好評を得る
昭和38	農協によるりんごの取扱いが開始（㊸和合果樹組合が設立し、共販体制の第一歩となる。当時はスターキングが人気で特に和合産は「蜜入りスター」として好評を得る。東北7号（ふじ）、東北3号（あかね）を導入
昭和40	宮宿果樹組合と㊸和合果樹組合が共選、共販の一本化に成功し、宮宿共選りんごとして取扱われる。ふじの食味貯蔵性が注目を浴び、生産者の人気が高まる
昭和44	木箱詰めから段ボールパック詰めになる。無袋ふじ、市場に初出荷
昭和46	低温貯蔵庫、選果場設備を持つ果実流通センターを設置
昭和47	無袋ふじ研究会（菅井功代表）発足
昭和49	無袋栽培技術が確立し、生産者の多くが無袋栽培に切り替える
昭和50	第2次構造改善事業でりんご産業の規模拡大を図る（昭和57年）。「ワイ化栽培」が始まる
昭和53	町内3農協が合併し、町農業協同組合が発足。宮宿果樹組合と㊸和合果樹組合が合併し、町農協センターりんご組合が「山新3賞（新栄栄賞）」を受賞
昭和54	出荷量が3820トンに達し、量・単価ともに無袋ふじのトップ産地としての地位を確立
昭和55	町のりんご総生産量が1万2000トンに上り、全国の1%を突破。千秋、北斗などへの品種更新を開始
平成1	りんご植栽101年記念式典開催。「日本1りんごの町」を宣言し、各種記念事業を実施
平成2	りんご販売額が33億円を突破
平成6	農協の広域合併により、さがえ西村山農業協同組合発足
平成7	朝日選果場に、光センサー選果機導入
平成9	りんご生産価格が早生種から晩生種まで大暴落。ふじは出荷すれば赤字となるため、山や川に捨てた農家もあった
平成13	町統一共選による「あじびか」の初共選
平成14	県内で無登録農業問題が発覚。県内の全りんご栽培農家に農業残留分析を義務づける。東京都中央卸売市場でふじが平成に入ってから最安値をつける
平成15	「あじびか」を商標登録の関連で「シナノスイート」へ改名
平成16	りんご輸出、台湾へ初出荷。町制施行50周年に合わせ、11月第3日曜日を「朝日町りんごの日」と条例で制定
平成19	朝日選果場に、最新鋭の光センサーを導入
平成23	高品質りんご生産緊急対策事業で「新半ワイ化栽培」の普及を推進
平成27	りんご輸出、過去最高数量および金額となる。数量約71・8トン、販売金額約2229万円
平成29	町りんご植栽130周年

テレビの視聴に関する 大切なお知らせです

11月16日（木）以降、携帯電話の新しい電波（700MHz）の影響により、テレビ映像が乱れる可能性があります。

これまで問題なく映っていたテレビ映像が乱れたり、映らなくなった場合には、下記コールセンターまでご連絡ください。

▶問合せ先

一般社団法人 700MHz 利用推進協会
700MHz（メガヘルツ）テレビ受信障害対策
コールセンター
【フリーダイヤル】 ☎0120-700-012
（受付時間）午前9時～午後10時

寄付採納報告



J Aさがえ西村山（柴田清志代表理事組合長）によるカーブミラーの贈呈式が、10月17日、町長室で行われました。

「地域の交通安全に役立ててほしい」と昭和48年より行われているもので、今回は4基が寄贈されました。これらは今後、見通しが良くない交差点などに設置される予定です。

長岡輝美氏に法務大臣表彰

■税務町民課 戸籍年金係 ☎67-2119



受賞の報告に訪れた長岡氏（写真右／10月18日）

10月16日、法務省（東京都）で長年にわたり人権擁護活動に尽力した人権擁護委員に対する法務大臣表彰受賞式が行われ、長岡輝美氏（常盤）が表彰されました。長岡氏は平成14年から15年間にわたり同委員として活動し、地域の相談役として特に子どもの人権を守る啓発活動等に尽力。組織内でも要職を務め、その姿勢は他の委員の模範となるものとして評価されました。県内では他3人が受賞しています。

チャリティー義援金を震災地へ寄付

■西部公民館 ☎67-2208



大会優勝者の阿部アイ子氏（右）と西部地区愛好会代表の佐竹庄吉氏（中央）

10月23日、「熊ノ山チャリティーグラウンドゴルフ大会」の震災義援金に町に届けられました。西部地区住民を中心に、熊ノ山農村公園でグラウンドゴルフを楽しむ愛好会員など76人が参加。合計4万1600円を集めました。東日本大震災後にチャリティー大会に変更し、今年で7回目。このお金は日本赤十字社を通して、震災被災地へ寄付されます。

平成29年度 朝日町自治功労者等表彰式

■総務課 庶務係 ☎67-2111

町の振興発展に貢献された方々を表彰する自治功労者等表彰式が11月7日、創遊館ホールで開催されました。今年は4個人2団体に対し、鈴木町長から表彰状が贈呈されました。受賞者は以下のとおりです。（順不同）



自治功労

井澤 壽一氏（夏草）

りんご栽培に取り組み、ブランドの確立、栽培技術や新品種の普及推進など、農業の振興発展に寄与。



自治功労

成原 早弓利氏（前田沢）

平成19年から10年間、朝日町青少年育成推進委員会委員として、青少年の健全育成に寄与。



自治功労

堀 光子氏（四ノ沢）

平成10年から19年間、朝日町芸術文化協議会理事として芸術文化の振興発展に寄与。



自治功労

齊藤 宇八氏（夏草）

平成12年から16年間、特別養護老人ホームふれあい荘の理事長等として社会福祉の向上に寄与。



善行褒章

音楽療法支援ボランティアグループ
代表 五十嵐 昭子氏（本町）

平成17年から12年間、特別養護老人ホームふれあい荘入所者の身体的機能の向上を支援する活動を行い、社会福祉の向上に寄与。



善行褒章

栄町長寿クラブ
代表 武田 一夫氏（栄町）

43年の永きにわたり、広場の草刈りや種まき桜の育樹を行い、環境美化や文化財の保護に寄与。

投票率 73.72% 10月22日執行 衆議院議員総選挙投票結果

■選挙管理委員会事務局（総務課内） ☎67-2111

■小選挙区選出

候補者名	政党名	得票数
当選 すぎき のりかず	自由民主党	2,807
近藤 ようすけ	希望の党	1,497
岩本 こうじ	日本共産党	223
無効		68
合計		4,595

町の投票率（小選挙区選出）は前回より2.49ポイント高い73.72%。県全体の投票率は64.07%で、全国1位を記録しました。期日前投票（同）は、投票総数4,595票のうち1,399票でした。

■比例代表選出

政党名	得票数	政党名	得票数
自由民主党	1,507	日本維新の会	87
希望の党	996	日本のこころ	34
公明党	927	幸福実現党	16
立憲民主党	552		
日本共産党	239	無効	123
社会民主党	113	合計	4,594

		歳入（収入）	歳出（支出）	差引	町債現在高	積立金現在高
一般会計		55億448万	51億385万	4億63万	66億8,258万	31億153万
特別会計	集落排水事業	2,064万	1,386万	678万	1,508万	1,957万
	国民健康保険	11億7,969万	11億1,943万	6,026万	－	6,943万
	介護保険	10億7,373万	10億1,500万	5,873万	－	7,239万
	後期高齢者医療	8,699万	8,653万	46万	－	－
企業会計	病院事業	(収益的収支)	6億1,294万	6億9,827万	△8,533万	－
		(資本的収支)	2,378万	6,081万	△3,703万	
	水道事業	(収益的収支)	1億6,851万	1億4,676万	2,175万	1億8,304万
		(資本的収支)	140万	1億590万	△1億450万	

※水道事業・病院事業の収支の不足額は、過年度分損益勘定留保資金等で補てんしています。※全会計とも実質黒字または資金剰余となっています。
※企業会計については、収益的収支は税抜き、資本的収支は税込みで表記しています。

■財政力指数 ☹ 標準的な行政活動を行う経費に、町税等の標準的な収入でどれだけ賄えるかを示す。1に近く1を超えるほど財源に余裕がある。 朝日町 0.20 県内 22 町村の平均 0.26 (朝日町の順位) 良い方から 16 位	■経常収支比率 ☹ 経常的収入（町税、普通交付税等毎年入る財源）から経常的支出（人件費、公債費、扶助費等の毎年必ず支払う経費）に充てられた割合を示す。値が低いほど自由に使える資金が多い。 朝日町 89.4% 県内 22 町村の平均 87.3% (朝日町の順位) 良い方から 16 位	■実質赤字比率 ☺ 一般会計等に係る実質赤字額の標準財政規模（税＋交付税＋臨時財政対策債）に対する比率 朝日町 ー% 県内 22 町村の平均 ー% (全市町村黒字のため比率なし)
■連結実質赤字比率 ☺ 全会計に係る実質赤字額の標準財政規模に対する比率 朝日町 ー% 県内 22 町村の平均 ー% (全市町村黒字のため比率なし)	■実質公債費比率 ☺ 一般会計等が負担する公債費（借金の返済）等に充てた一般財源の、標準財政規模に対する比率。高いほど公債費の割合が高く、財政を圧迫していることで、18%を超えると町債発行に県の許可が必要となる。 朝日町 1.5% 県内 22 町村の平均 8.6% (朝日町の順位) 良い方から 1 位	■将来負担比率 ☺ 一般会計等が将来負担すべき債務（借金等）の標準財政規模に対する比率。比率が高いと、将来これらを実際に支払う必要がある。今後の財政運営が圧迫される可能性が高いことを示す。 朝日町 ー% 県内 22 町村の平均 58.7% (朝日町の順位) 良い方から 1 位

※指標は「地方財政状況調査」「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」をもとにしています。
※県内町村の各種比率は、単純平均です。

朝日町の状況と今後の取り組み

朝日町の実質公債費比率、将来負担比率は、早期健全化基準を大きく下回り、県内町村の中でトップクラスの健全性と言えます。しかし財政状況を考えるときは、他の財政指標等も合わせて考える必要があります。その点当町は、特に財政力指数（0.20%）、経常収支比率（89.4%）が弱く、財政に余裕があるわけではありません。

少子高齢化・定住・地方創生等に要する経

費が年々増加するなか、近年は公共施設や道路、橋梁といった社会インフラの老朽化に伴う修繕が相次いでいます。こうした経費は今後も膨らむ見込みであり、町税が伸び悩み、地方交付税の先行きが不透明な昨今にあっては、財政運営に引き続き厳しい姿勢で臨む必要があります。持続可能な財政運営を行うため、今後も事業の選択と集中を進め、健全性の維持に努めます。

平成28年度

決算報告

一般会計全体

一般会計の歳入は、55 億 448 万円（対前年度比 4.7% の減）、歳出は 51 億 385 万円（対前年度比 4.4% の減）となり、歳入歳出差引残額は 4 億 63 万円となりました。

この残額のうち、事業が終わらないため翌年度に繰り越して使うお金 32 万円を差し引き、さらに財政調整基金に 2 億 5,000 万円を積み立てた残額 1 億 5,031 万円を 29 年度に繰り越しました。

歳入

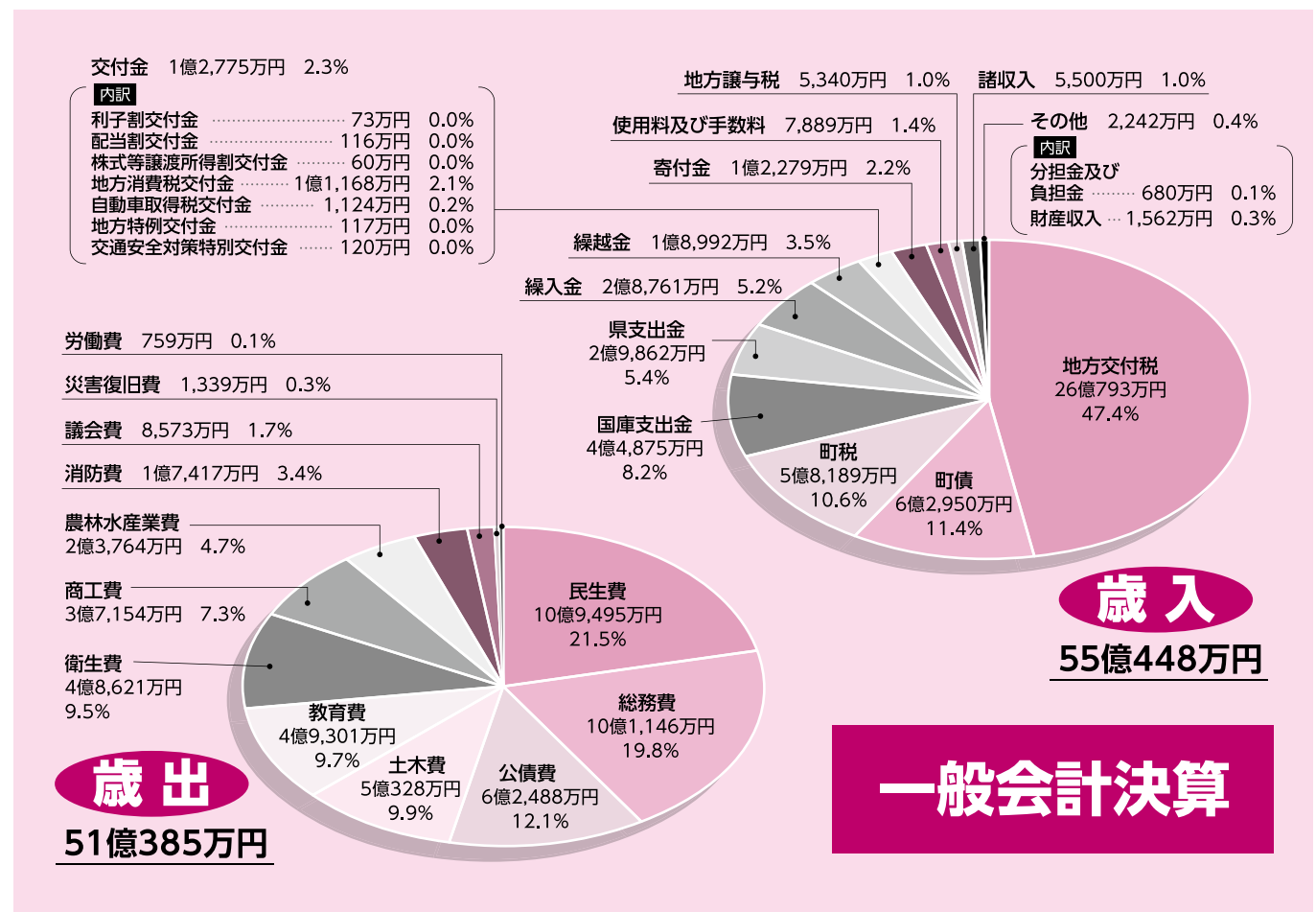
歳入は軽自動車税の税制改正等により町税が 384 万円（0.7%）、ふるさと納税の増加で寄付金が 4,018 万円（48.6%）それぞれ前年度から伸びています。

一方、歳入のほぼ半分を占める地方交付税は、病院における病床数算定方法の見直し等により約 7,298 万円（2.7%）の減。国・県支出金についても、道の駅建設のための交付金や役場庁舎・道の駅太陽光パネル設置のための交付金が事業終了によりそれぞれ 6,050 万円、2,877 万円の減となり、全体としては前年度比 2 億 7,296 万円（4.7%）の減となりました。

歳出

歳出はあさひ保育園未満児室の増改築や臨時福祉給付金事業で民生費が 1 億 2,822 万円（13.5%）、大谷小体育館や朝日中武道館、町民プール等改修、スクールバスの購入等で教育費が 3,895 万円（8.6%）それぞれ増加しています。

一方、前年度に道の駅の建設や防災行政無線整備等の大型事業を実施した商工費、消防費が、事業終了によりそれぞれ 2 億 2,135 万円（37.3%）、1 億 5,686 万円（47.4%）と大幅減となり、全体としては昨年度比 2 億 3,367 万円（4.4%）の減となりました。





ホームページに写真



10/5
~26

米寿を祝う刺し子と絵手紙の作品展 八十八歳 二人展

10月5日から26日までの期間で、鈴木たかさん（刺し子／西町）と阿部良子さん（絵葉書／元町）による作品展「八十八歳 二人展」が創遊館で開催され、期間中に約250人が訪れました。同級生で同じ教師の道に進み、教師時代からの友人同士というお2人。退職後、ともに女性文化教室などで刺し子や絵画を学び、すばらしい作品を作り続けています。二人展は77歳の喜寿記念に開催してから2回目。「今回は米寿と約束して、実現できたのが何より嬉しい。これからも楽しみながら元気に頑張っていきたいね」と2人笑顔で話していました。

10/13

町産ブドウのおいしさを実感 シャインマスカットのもぎ取り体験

10月13日、宮宿小学校の2年生20人がブドウ生産者の武田貴浩さん（栄町）の園地に招かれ、シャインマスカットのもぎ取りを体験しました。「町産果物の美味しさを知り、大人になっても町を誇りに思っって宣伝してほしい」との想いで、6年前から子どもたちを招いている武田さん。一房1000円ほどの高級ブドウを存分に味わった子どもたちは、「噛むと果汁が口の中いっぱいにあふれてくる」「すっごくおいしい」と満面の笑みを浮かべていました。

10/13

町シルバー人材センターが9年間無事故 「安全就業特別賞」を受賞

県シルバー人材センター連合会による安全就業推進大会が10月13日山形市で開催され、朝日町シルバー人材センターが「安全就業特別賞（9年間無事故）」の表彰を受けました。

今年度、同表彰を受けたのは中山町（4年間無事故）と当町のシルバー人材センターのみ。13日、報告のため町長室を訪れた同センターの藤沢盛治理事長は、鈴木町長に日頃の安全確保の取り組みを報告するとともに、無事故期間のさらなる更新を誓いました。

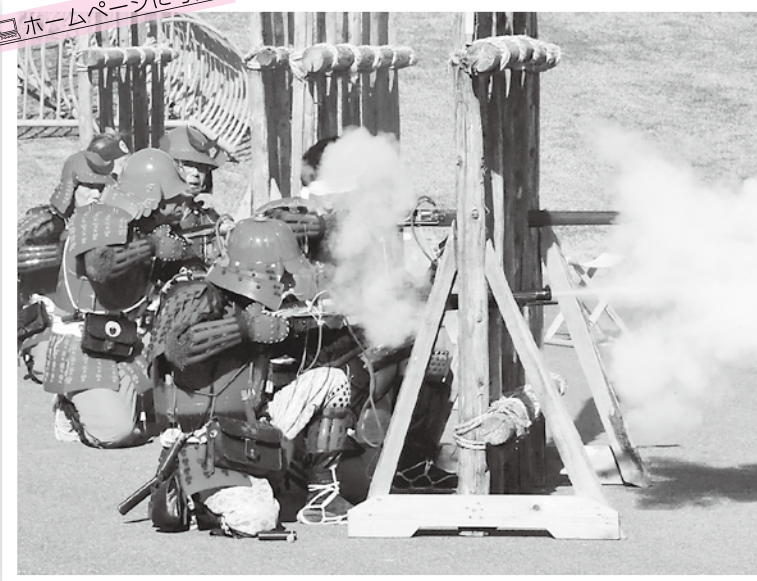
10/14

りんごの収穫と芋煮会で深める友情と交流 海の子山の子交流会「山の集い」

友好の町・宮城県七ヶ浜町と交流を深める「海の子・山の子交流会」。その「山の集い」が10月14日に行われました。

七ヶ浜町立亦楽（えきらく）小4～6年生27人と、大谷小4～6年生37人が参加。7月に行われた「海の集い」以来の再会を喜びあい、舟渡地内の園地でシナノスイートのもぎ取りを体験したほか、大谷小校庭で芋煮会を楽しみました。その後は大谷地区のシンボルである秋葉山を散策するなど、朝日町の秋を満喫しました。

ホームページに写真



11/3
~5

芸術文化に親しみ、日頃の活動の成果を披露 第53回 朝日町芸術文化祭

第53回町芸術文化祭が11月3日から5日にかけて創遊館・西部公民館・秋葉山交遊館を会場に開催されました。

今年度、町芸術文化協議会に加盟しているのは、31団体、2個人で、会員総数は約320人。それぞれの会員や小・中学生がステージで、そして展示で日ごろの活動の成果を発表し、多くの町民が芸術の秋を楽しみました。

なお、式典の中では、堀光子さん（四ノ沢）に「あさひ芸術文化協議会感謝状」、阿部良子さん（元町）、阿部和子さん（立木）、柴田美洋子さん（大町）に「あさひ芸術文化奨励賞」が贈られました。





▶お餅やお菓子を撒く「建前」。夢中で拾う子どもたち



10/17 棟上げの終了を祝い、完成までの安全を祈願 放課後児童クラブ上棟式

今年度2月に移転新築の完成を予定している町放課後児童クラブ施設。柱や梁などの骨組みを組み上げる「棟上げ」までの工事終了を祝い、今後の安全と完成を祈願する上棟式が10月17日、現地で行われました。式では施工業者や関係者等による四方清めなどの祭りの後、お餅やお菓子を撒いて振る舞う「建前」を放課後児童クラブの児童へ向けて実施。子どもたちは空から降ってくる「福」を夢中で拾い集め、満足気な様子でした。



10/14 6年後の成人式で美味しいワインを 朝日中3年生親子ブドウ収穫体験

10月14日、朝日中3年生の親子学年行事「ブドウ収穫体験会」が朝日町ワイン内の園地で行われ、55組の親子が参加しました。町の特産品であるワインを通じて郷土理解と愛着を深めようと平成14年から毎年行われているもの。収穫した「メルロー」は赤ワインの原料で、このブドウから造られるワインが約6年後の成人式で記念に贈られます。白田^{かな}樺南さん（大谷二）は「1つ1つ丁寧に作業できた。仕上がったワインを仲間と飲むのが楽しみ」と笑顔で語っていました。



10/18 りんご狩りや食事会、グラウンドゴルフで交流 大谷五区と七ヶ浜町との住民交流会

10月18日、友好の町七ヶ浜町汐見台地区友の会会員16人が町を訪れ、大谷五区の住民と交流しました。今夏、同区の区民研修で汐見台地区と交流したことがきっかけで今回の訪問に発展。当日は町内のりんご園地（志藤修二氏園地）でシナノスイートのもぎ取り体験をしたほか、秋葉山交遊館でひきずりうどんの昼食会、グラウンドゴルフ大会などを実施。最後に大谷五区の公民館で懇親会を行い、更なる交流を深めました。



10/15 美味しいふじりんごの収穫を願って りんごの樹オーナー制収穫祈願祭

一口50,000円でりんご（ふじ）の樹丸ごと1本のオーナーになれる「りんごの樹オーナー制」。10月15日、今年の収穫祈願祭が開催され、オーナー登録者67人のうち37人と、その家族など約150人が参加しました。午前中に園地で最後の体験作業となる「玉返し」を行ったあと、秋葉山交遊館内に場所を移動。豊作を祈願する杵つき餅やりんごの皮早むき競争、なめこ汁の振る舞いなどを楽しみました。



10/24 書籍出版の講談社が取り組む巡回事業 おはなしキャラバン隊がやってきた！

10月24日、「おはなしキャラバン隊」のキャラバンカーが町にやってきました。書籍出版社の講談社が創業90周年事業として18年前に開始した取り組み。500冊以上の絵本を積んだ車が毎月1都道府県を巡回するもので、山形県を訪れるのは今回で9回目になります。西五百川小学校では、1～3年生19人がキャラバン隊や「おはなし会ぶなの実」の皆さんによる読み聞かせを楽しんだほか、キャラバンカーの絵本を何冊も手に取り、熱心に読んでいました。

ホームページに写真



10/15 閉館後の図書館で朗読と音楽会を楽しむ 夜の図書館 ～光と音楽と語りのシンフォニー～

10月15日、町立図書館で「夜の図書館」と銘打った朗読会が行われ、35人が参加しました。多くの方に図書館に足を運ぶきっかけと、本の世界のすばらしさを知ってもらおうと開催し今年で2回目。普段は入れない閉館後の図書館に「モノの見方・見え方・感じ方」というテーマで選ばれた本や詩の朗読と、ヴァイオリンとピアノの演奏が響き渡りました。親子で参加の神尾璃子さん（沼向）は「お昼と雰囲気違って特別な感じがした。お話も面白かった」と満足気でした。同会で読まれた本は、町ホームページ（まちの写真館）で紹介しています。



10/29 朝日町の神社・御堂を巡る見学会 「神・仏まいり」～其の弐 中部編～

10月29日、町エコミュージアム協会が主催する「神・仏まいり」が開催され、町内外から16人が参加しました。昨年から3カ年に渡り開催を企画している見学会。今回は中部地区に約40カ所ほどある神社や御堂の中から選定した10カ所を巡りました。中には1000年以上の歴史を誇る神社や、最上川舟運の安全祈願のために建立された神社などがあり、参加者は説明に熱心に耳を傾け、質問していました。次回平成30年度は北部地区を巡ります。



「雨」「夜」「霧」など様々な状況を設定。画面で左右を確認しながら安全に道路を渡る練習を行う参加者

10/16 安全な横断方法をシミュレーションで体験 大町元気クラブ 交通安全勉強会

10月16日、宮宿公民館で大町元気クラブ（長岡利枝代表）の交通安全勉強会が行われ、大町長寿クラブ会員など16人が参加しました。寒河江警察署と宮宿駐在所の協力により、歩行環境シミュレータ「わたりジョーズ君」が登場。様々な道路環境をスクリーンに投影し、道路を横断する際の危険や安全確認の大切さを疑似体験しました。参加した伊藤とき彥さんは「町内でも横断危険箇所は多い。これから自分からすすんで交通安全に努めたい」と語っていました。



RUN! RUN! RUN!

実りの秋! スポーツの秋! 朝日町の秋
はとってもにぎやか。
特産の「りんご」と「スポーツ」に
ちなんだ町ならではの2つのイベン
トを、写真でご紹介します。



アップルミートマラソン&ウォーキング

あさひまちアップルミートマラソン&ウォーキングが10月21日に開催されました。

3回目となる今回のコースは、Asahi自然観を発着点としたマラソン10キロ、ウォーキング8キロの「ダウンヒルクライム(下り・上り坂)」。大きくリニューアルしましたが、給水所では町自慢のりんごが食べ放題など「美味しいおもてなし」は健在です。

当日朝は台風の接近による生憎の空模様でしたが、競技中は奇跡的に曇り空を維持。県内外から集まった246人の参加者が、紅葉も美しい白倉〜立木間の山間部を走り抜け、旬のりんごを思う存分味わいました。

■総合成績 (入賞上位6チーム。全順位は町ホームページで紹介)

順位	チーム名	記録
1位	宮宿A	1時間 29分 20秒
2位	大谷風	1時間 29分 59秒
3位	中沢・玉ノ井	1時間 37分 23秒
4位	上郷	1時間 39分 16秒
5位	三中	1時間 39分 25秒
6位	大谷神	1時間 39分 34秒

■区間賞 (※は区間新記録)

区間	選手名	チーム名	記録
1区 (1.5km)	志藤 大地	中沢・玉ノ井	5分 30秒
2区 (3.7km)	堀 博道	中沢・玉ノ井	12分 13秒
3区 (2.7km)	鈴木 勝太	大谷風	9分 02秒
4区 (1.2km)	早坂 優希	大谷神	4分 48秒
5区 (2.2km)	渡辺 悠月	宮宿A	7分 13秒
6区 (1.4km)	堀 龍空	宮宿A	※ 5分 16秒
7区 (3.6km)	櫻井 豊	大谷風	※ 10分 41秒
8区 (1.6km)	鈴木 智美	ときわ	6分 33秒
9区 (2.3km)	佐竹 柊	上郷	※ 7分 54秒
10区 (1.2km)	長岡 蘭	大谷風	4分 32秒
11区 (3.6km)	白田 誠	大谷風	12分 04秒

第34回アップル町民駅伝競走大会

町のりんごの季節を彩る「第34回アップル町民駅伝競走大会」が10月8日に開催され、町内10チームが25.0キロ、11区間をタスキでつなぎました。

午前9時30分にスタートの号砲が鳴ると、序盤は「中沢・玉ノ井」「ときわ」「大谷風」「宮宿A」4チームによる抜きつ抜かれつのレースが展開。5区で「宮宿A」が2位に浮上し6区でトップに、7区で「大谷風」が抜き返し、ほとんど差がない状態でデッドヒートを繰り広げます。8区を終え、トップが「宮宿A」、追いかける「大谷風」、3位の「中沢・玉ノ井」が引き離されないように食い下がり、そのままタスキはアンカーへと託されます。2位の「大谷風」は昨年も同チームアンカーを務めた白田誠選手が猛追しましたが、「宮宿A」の長岡輝喜選手が39秒差で逃げ切りフィニッシュ。「昨年のリベンジをずっと意識していた。仲間のおかげで無事トップを守り切れた」と語る長岡選手。見事優勝旗を手にし、晴れやかな笑顔でした。

※第1区の区間賞について、今回掲載の記録は当日閉会式で発表したものから修正しております。実行委員会と協議した結果、了承されたものです。経過と内容については22頁をご覧ください。



ひめさゆり

俳句大会



町内小中学生を対象にしたひめさゆり俳句大会が今年も実施され、応募総数973句（441人の審査結果がこのほど発表されました。

審査員とともに現代俳句協会の佐竹伸一氏（常盤）と守谷茂泰氏（東京）が務め、次の句が金賞、銀賞に選ばれています。

このほかの入選作品については、今後お知らせ板で紹介します。

▼金賞（佐竹伸一氏選）

口開けて親子三人大花火

宮宿小5年

熊谷 帆香

▼金賞（守谷茂泰氏選）

テントから空を見上げてうちゅうだね

西五百川小2年

佐藤 紗紗

▼銀賞（佐竹伸一氏選）

あさがおのいろはいちごのかきこおり

大谷小1年

いがらしれん

虫食いの葉っぱに見つけた福笑い

西五百川小6年

佐竹 萌

かき氷はおばり頭が孫悟空

朝日中3年

太田 迪喜

▼銀賞（守谷茂泰氏選）

あさがおのあおがさいたよそらみたい

大谷小1年

あべ まなか

夜空から花火のしずく手を広げ

宮宿小5年

熊谷 帆香

かき氷はおばり頭が孫悟空

朝日中3年

太田 迪喜

審査を終えて

佐竹伸一氏

金賞の熊谷さんの句。次々と打ち上がる花火を見上げ、その大きな美しさに驚きの声をあげている仲の良い親子3人の姿が目には浮かびます。大花火という季語を上手に使い、中七、下五の出だしの「お」の音のくり返しが、この句にリズムを与えています。

銀賞のいがらしさんの句の面白さは、あさがおの色をいちごのかき氷に例えたところ。この句には「あさがお」「かきこおり」の2つの季語がありますが、あさがおが主語なので秋の句になります。いろいろこの「い」の音のくり返し心地よいリズムを作っています。

同じく銀賞の佐竹さんの句の良さは、虫食いの葉っぱの穴に「福笑い」を発見したところ。「福笑い」は新年の季語なので、落ち葉に見つけた虫食いです。青葉の季節の虫食いの感じもします。太田さんの句のうまさ、かき氷を食べて頭が痛くなった状態を「孫悟空」と表現したところ。二蔵法師の呪文で悪魔をした孫悟空の頭を輪が締めつける「西遊記」のお話を上手に踏まえています。

守谷茂泰氏

金賞の佐藤さんの句。キャンパスをしながら見上げる星空の美しさを「うちゅうだね」と表現したところに実感がこもっていました。降るような星空が見えてくるようです。

銀賞のあべさんの句。朝顔の青い色を見つめて、花の咲いた様子を「そらみたい」と発見したところに詩の心を感じました。言葉のリズムが心地よい作品です。熊谷さんの句。しずくのように空から降ってくる花火の光。それにむかふて手を広げるといふ表現から、花火を見た瞬間の感動が伝わってきました。太田さんの句。かきこおりを食べて頭が痛くなる体験を、輪を頭につけられた孫悟空に例えています。発想が新鮮で楽しい作品です。

みずみずしい作品が多く、選に迷いました。俳句は物事をよく観察すること、五七五のリズムに親しんで作り続けることで、誰でも素晴らしい作品を作ることができます。今回惜しくも入賞しなかった皆さんも、ぜひこれからも感動を俳句に詠んでください。



町地域おこし協力隊と桃色ウサビの「中の人」こと、佐藤恒平まちづくり総合アドバイザーによる連載コーナー。日々の活動や朝日町での暮らしを語ります。

山形駅前より朝日町発信！

まちづくり総合アドバイザー 佐藤 恒平（福島県出身）



1月からオープンしたゲストハウス松本亭一農舎では、宿泊だけでなく、水曜日以外の午後1時から8時までの時間で、自由に使用いただける無料の休憩スペースを開放しています。

先日、ついにその利用者が通算1200人を超えました。そのうち半分は町内の利用者で、交流会や料理の勉強会、または法事など、様々な用途で活用いただいています。

確かな手応えを感じる一方、より外のお客様への宣伝が必要だと考えます。そこで、町の観光PRの一環として、9月下旬より、山形駅のショーウィンドウ（改



町立図書館新刊案内

「ホワイトラビット」

伊坂 幸太郎 著



その夜、街は静かだった。高台の家で、人質立てこもり事件が起こるまでは……。仙台で発生した人質立てこもり事件。S-I-Tに所属、宮城県警を代表する優秀な警察官も現場に急行し、交渉を始めるが……。予測不能の籠城ミステリー。著者は仙台市在住。

第20回ひめさゆり童話賞受賞作
「せなかのともだち」
萩原 弓佳 作／洞野 志保 絵



フンズワ森の下には、とても意地の悪いヒツジが住んでいました。その背中の上に落ちたのは、上の森に住むおこりん坊のハリネズミ。ヒツジの毛とハリネズミのハリがからまって、とれなくなってしまう……。



【ブックテマコーナー】
「山形県図書館大賞 2017」
心躍る！冒険・旅に出くなる本
読むとワクワクする本

【その他の新刊】
▼西郷の首／伊東潤 ▼砂上／桜木紫乃 ▼高架線／滝口悠生
▼武士マチムラ／今野敏 ▼守教上／下／常木蓬生 ▼花になるらん／玉岡かおる ▼千夜と一夜の物語／仁木英之 ▼シングル女性の貧困／小杉礼子 ▼社会保障クライシス／山田謙次 ▼検証働き方改革／日本経済新聞社
▼マスコミはなぜここまで反日なのか／ケント・ギルバート ▼それ、売りますか？貸しますか？運用しますか？無料という手もあります。／泉正人 ▼プラタモリ9 平泉 新潟 佐渡 広島 宮島 ▼プラタモリ10 富士の樹海 富士山 麓 大阪 大阪城 知床／NHK「プラタモリ」制作班 ▼おんな城主直虎4／森下佳子 ▼琥珀の夢上／下／伊集院静 ▼踊る星座／青山七恵 ▼千の扉／柴崎友香 ▼愛のかたち／岸恵子 ほか

戸籍のまど

Asahi town

10月1日～10月31日届出

Births

すこやかに

区 名	出生児氏名	性別	保護者名
栗木沢	遠藤 百華	女	真悟・恵梨子
沼向	高橋 まゆり	女	尚洋・幸奈

Obituaries

やすらかに

区 名	死亡者氏名	世帯主名
大谷四 平	白田 美智子	敏 男
常盤	清野 カツ子	庄 治
沼向	長岡 スエ子	本 人
大谷三	菅井 はるの	勝 尋
大谷六	菅井 良 祐	建 精
水本	阿部 重 吉	本 人
本町	岡崎 高 子	幸 三
新宿	佐藤 昭 吉	美喜子
常盤	熊谷 と よ	康 春
	長岡 公 雄	哲 博

掲載を希望しない場合は
届け出の際にお申し付けください

Population

人口と世帯数

●平成29年10月31日 現在

※（ ）内は先月比

人 口	7,107 人 (－ 10)
男	3,508 人 (－ 6)
女	3,599 人 (－ 4)
世帯数	2,463 世帯 (＋ 3)

----- 10月中の異動 -----

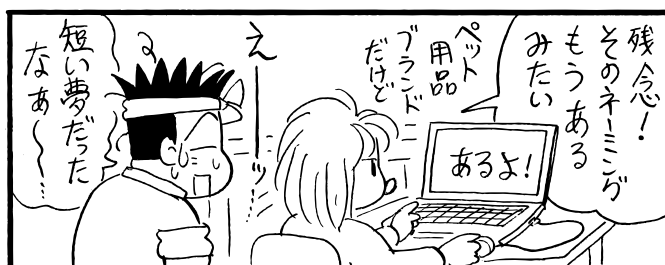
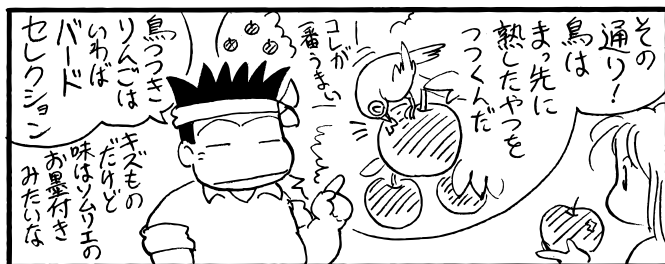
出生	2人	転入	8人
死亡	11人	転出	9人

(※外国人を含む)

となりのリンゴさん

(297)

ホリイ



町の主な行事・イベント

(11月17日～12月16日)

11月18日(土) 朝日町産業まつり、りんごまつり、りんご品評会 (～19日)

12月2日(土) 女性文化教室 女性まつり(～3日)
9日(土) クリスマスこどものつどい
16日(土) Asahi 自然観スキー場開き



昨年の様子：産業まつり(左)、クリスマスこどものつどい(右)



認知症ドンマイ！ いきいき過ごして楽しく長生き

【平成29年度 第8回】

今月の担当 … 朝日町立病院 主任作業療法士 清野敏秀



▲ユーモアも大切です(出典：山形県作業療法士会 認知症出前講座資料)

朝晩冷え込みが厳しい季節となりました。風邪などひかないように、体調管理には気を付けたいものです。

ところで皆さんは「認知症」について存じですか。認知症は、年齢を重ねていく間に脳の機能が衰え、例えば用件を聞いても覚えていられなかったり、今までできていた料理がうまくできなくなったりするなど、生活に支障をきたしている状態のことを言います。

若くして(65歳以前に)発症する場合もあり、この場合は若年性認知症と呼ばれます。大体85～90歳で4割の方が、90歳以降では7割の方が認知症、または認知症予備軍

とされています。長生きとなり、認知症は縁の深いものです。認知症の症状で多いのは、元気がなくなったり、閉じこもり気味になることです。早い段階で気付く、対応することとで進行を遅らせることができます。

そのためには、周囲の環境や関わり方が大切になります。馴染みのものをそばに置くこと。今まで行ってきたこと(例えば畑仕事や草取り、漬物つけ、洗濯物たたみ等)はできるだけ続けてもらうこと。行うてもうたこと「ありがとう」と感謝を伝えることなどです。

自分が「できる」「役に立っている」「楽しい」という感情を持てること、認知症の進行を遅らせ、予防にもつながります。

お互いにちょっとした気遣いや声掛けを意識し、時にはユーモアを持って、いきいき楽しく長生きしましょう。



第34回 アップル町民駅伝競走大会「第1区区間記録の修正」に関する経過の報告とお詫び

この度、標記大会結果について、当日閉会式で発表した内容を修正することにいたしました。第1区ですばらしい走りを見せてくれた「中沢・玉ノ井」及び「ときわ」両チームの選手に心から拍手を送るとともに、主催者側の不手際により、判定において両選手並びに関係者の皆さまに多大なご心配とご迷惑をおかけしたことを心からお詫び申し上げます。また、この経過について以下のとおり報告申し上げ、主催者として、町民の皆さまに深くお詫びを申し上げます。【大会実行委員会・教育委員会】

＊ ＊ ＊

当日、1区は「中沢・玉ノ井」の選手が1位、「ときわ」の選手が2位で中継点に到達しました。ここで中継所の運営の不備があり、タスキの受け渡しに時間がかかった「中沢・玉ノ井」は2位で、一方スムーズなタスキの受け渡しが行われた「ときわ」は1位で、中継所を出発しました。

当大会の審判規定では「中継はタスキの受け渡しによる」と定めているため、「中沢・玉ノ井」の記録は1区から2区の選手にタスキが渡った時点とし、その順位とタイムを当日の中継記録としました。しかし、当規定と判定について、一部疑問の声があったため、後日県陸上競技協会より「日本陸上競技連盟の駅伝規定」から捉えた見解をいただきました。同規定では「中継の着順判定及びタイム計測は、前走者の胴体が中継線に到達した時」とあり、実行委員会において協議を行った結果、記録の修正を行うことにしました。

今後は、大会の審判規定に着順判定とタイム計測、タスキの受け渡し等について明文化し、監督会議で十分な確認を行って大会に臨んでいただけるよう配慮してまいります。また、中継所もスムーズで明確な運営ができるような改善を図り、今回のようなことがないように備えます。



▼表彰式で、最優秀賞の賞状を受け取る吏紗さん



▲11月9日、村山総合支庁で行われた表彰式会場で兄妹笑顔で記念撮影（写真左から白田玄さん、吏紗さん）

おいしいごはん ポスターコンクール

農業への理解と米の消費拡大のため、村山地域の小学生を対象に「ごはんを食べたくなる」ような標語入りポスターを募集する同コンクール。

27回目を数える今年は1,282点の応募があり、白田吏紗さん（大谷小2年）の作品が最優秀賞に選ばれたほか、優秀賞5点のうちの1点に白田玄さん（同小4年）の作品が選ばれました。なんと2人は兄妹でダブル受賞。玄さんは同コンクールで2年前にも最優秀賞を受賞しています。

11月9日、村山総合支庁で行われた表彰式では、

大きな賞状を受け取った吏紗さんが「ごはんとお母さんがにぎってくれるおにぎりが大好きです。モチモチふわふわのおにぎりは、お母さんの気持ちが伝わってきます。わたしも優しい気持ちでおにぎりをにぎって、家族のみんなに食べてもらいたいです」と受賞者代表であいさつしました。

入賞作品は今後カレンダーなどに使われ、各関係団体に配布されるほか、西村山地域各市町村で巡回展（町では11月18日～19日／産業まつり内で展示）を実施し、米消費拡大のPRに活用される予定です。

私の家はりんご農家ではありませんが、町のりんごは最良目抜きにしても日本一美味いりんごだと胸を張れますし、誇りに感じます。町のいたる所で真っ赤に実ったりんごが甘酸っぱい匂いを振りまくこの季節。冬の剪定、春の摘花・摘果、夏からは葉摘みに玉返し、そして秋の収穫。一個のりんごに最低でも6度の手間暇がかかっています。それを鑑みても、実りの季節の風景からは、丹精込めて育ててきた生産者の皆さんの熱い想いが伝わってくるようです。村山 彩

春夏秋冬 編集後記

真っ赤なりんごがある風景

今年で植栽130年目、「りんごタウンの里」と看板にもあるように、基幹作物として町の経済を大きく支えてきた「朝日町のりんご」について特集しました。朝日町が誕生したのが63年前ですから、なんとその倍以上の歴史があるんですね。私自身初めて知ることばかりで、とても勉強になりました。ページの関係上、ご紹介できた物語はそのほんの一部ですので、よろしければ本文中で紹介している参考書籍などもぜひご覧ください。町立図書館で閲覧できます。